

事業実施報告書

認定 NPO 法人 地球市民の会

事業実施報告書

認定 NPO 法人地球市民の会
理事長 山下 雄司

1. 団体名

認定 NPO 法人 地球市民の会

2. 事業名称

心のふるさと富士町へ 2012 夏休みふるさとステイ！ ～夏休みの思い出み一つけた～

3. 事業実施経過

- 4月 事業実施地にて事業説明、日程調整、協力依頼
事業計画打ち合わせ
- 5月 事業実施地代表者とのプログラム打ち合わせ
プログラム作成、参加者募集チラシ作成
日程の調整
- 6月 佐賀県・佐賀市・佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会への後援依頼
佐賀市内全小学校へのチラシ配布、市外の学校へのチラシ配布依頼と配布
各種手配・調整（バス借り上げ見積もり、食事手配、講師依頼と手配等）
学生サポーター募集
- 7月 事業運営スタッフやサポーター事前打ち合わせ
参加者確定
参加者の各家庭への通知書発送と手続き（保険、健康調査票管理、参加費手続き等）
サポーター用・参加者用パンフレット作成
事前準備

4. 実施内容

(1) 目的

当法人は2009年より佐賀北部の山間部において地元の方々と協働で地域づくりを行なってきた。その中で住民との話し合いを通してもっと多くの方に来てもらいたいという要望があり、小学生を対象としたキャンプ事業立案に至った。この事業は自然を通し、地元の方々と触れ合い、学びのある青少年の健全育成を目的としている。

内容としては自然あふれた富士町関屋集落を舞台に、自然と共存した昔の知恵や遊び、さらには地元の方から様々な知識を覚えてもらうプログラムとなっている。また、地元の食材を食し、交流を行うことで自然の魅力を五感で感じることができ、「富士町のおばあちゃんのところにも遊びに行きたいな」、「〇〇を教えてくれたおじいちゃんと一緒にお話をしたいな」など、地域を越えた持続的な交流も期待できると思われる。

(2) 概要

今回、この事業を実施するにあたり、参加者を佐賀県内の小学生を中心に、遠くは福岡

県大川市や早良区から募ったところ、総数 78 名の申込があった。そして 7 月下旬から 8 月中旬までの間、2 泊 3 日のコースを 3 本、1 泊 2 日のコースを 1 本実施した。この計 4 本のコースでは、それぞれ異なる企画を計画し、コース毎の特色を出した。どのコースでも事業実施地である関屋集落ならではの資源を生かした自然体験活動プログラムを実施した。

また、事業運営のサポーターとして、高校生以上の男女の募集を募った。

(3) 日程

①2 泊 3 日コース

- ・ふるさとくらしワクワク体験コース /7 月 31 日 (火) ~8 月 2 日 (木)
- ・食育まいう〜コース /8 月 6 日 (月) ~8 月 8 日 (水)
- ・自然ドキドキ体験コース /8 月 10 日 (金) ~8 月 12 日 (日)

②1 泊 2 日コース

- ・寺子屋コース /8 月 14 日 (火) ~8 月 15 日 (水)

5. コース毎の活動内容

(1) ふるさとくらしワクワク体験コースについて

参加者児童数は 19 名、運営スタッフ数は 8 名で実施した。対象者は小学 1 年生から 3 年生であり低学年向けのコースとして実施した。このコースのメインプログラムは、魚釣りとおとりであり、低学年でも安心して楽しく活動できるよう、スケジュール調整を行った。

・初日午前：箸作り

箸づくりキットを用いて、参加者全員が箸を作成した。このキットは箸の材料であるヒノキを、かんなで削って箸を作成するキットである。かんなで削る作業は、低学年にとっては大変労力がある作業であった。だが、苦労したからこそ、完成した箸を手にした子ども達は、誰もが喜んでおり、自分で作った箸で食事をする様子は満足そうであった。

・初日午後：虫とり、古湯温泉入浴、暗闇探検と星空観察

地域の方を講師に向かえ、虫とり採集を行った後、古湯温泉で入浴をした。また夜には暗闇探検と星空観察を行った。暗闇探検の目的は、普段、街灯に囲まれた生活をしている子ども達に、本当の夜の暗闇について、また暗いからこそ感じる自然の様々な風景や星空について、体感してもらいたいと思い企画した。街灯のない暗闇の中を、懐中電灯を付けずに散策することに、当初は緊張していた子ども達であった。だが次第に暗闇に慣れてくると、聞こえてくる自然界の様々な音や一面の星空に大変喜び、楽しそうに活動していた。

・二日目午前：魚釣り、素麺流し

えさとなるミミズ探しから取り掛かった子ども達は、真剣な様子で魚釣りをしていた。初めて釣りをした参加者が多く、この活動が子ども達にとって一番面白かったようであった。また、自分で釣ったという達成感に生き生きと活動している様子を見受けられた。

・二日目午後：川遊び、そばの芽キット作り

素麺流しを行った後、川遊びを実施した。また、夜にはそばの芽キット作成という作業を行った。その内容とは、そばの種を自分達でコップに絵を書いて、そのまま紙コップに蒔くというものである。キャンプ終了後、各々の自宅に持ち帰ってもらい、自分達で水遣りなど世話をし、食と農の繋がりを身近に感じてもらうことを目的とした企画であった。この二日目の夕食前に、別途スタッフが栽培していた、そばの芽を収穫し、夕食のおかずとして食べていたため、このキット作り作業は子ども達にとってイメージしやすかったようで、作業は和気あいあいと進んだ。また紙コップに描く絵も、このキャンプの思い出を描く子ども達が多くいた。このことから、同世代の子ども達と一緒にあった、たくさん

の自然体験活動経験が、かけがえのない時間であったということをスタッフ自身改めて感じた。

・ 三日目午前：清掃

清掃活動に関しては、期間中、自分達が使ったところということで、自ら進んで一生懸命清掃活動に臨んでいた。

・ 三日目午後：県民の森でのクラフト作り、清掃活動

午後からは、21世紀県民の森森林学習展示館の施設を利用し、クラフト作りを講師の方の指導の下行った。木の実を使ったネックレス作りであったが、子ども達は口々に「家族へのプレゼントにする」と喜んで作成していた。



魚釣りに熱中する子ども達



和気あいあいと川で元気に遊ぶ様子



残さずしっかり食事をした子ども達



クラフトネックレスは家族へのお土産



そばの芽収穫を楽しんだ

(2) 食育まいうーコースについて

参加者児童数は12名、サポーター数は8名で実施した。対象者は1年生から6年生であった。このコースは食がテーマであり、地元で採れた野菜を使い、自分達でご飯を作って食べるというプログラムがメインイベントであるコースであった。

・ 初日：箸作り、虫とり、古湯温泉での入浴、暗闇探検、星空観察

Bコースの内容とはほぼ一緒であり、午前中に箸作り、午後に虫とりを行った後、古湯温泉で入浴をすませた。夕食後、暗闇探検と星空観察を行った。この日の星空観察では、近くの高台に位置した広場にブルーシートを敷き、皆で寝転んで夜空を観察した。ちょうど、

流星群が現れる時期と重なっていたため、流れ星をたくさん見ることが出来た。初めて流れ星を見たという子ども達が多く大変感動していた。

・ 二日目午前：魚釣り、素麺流し

二日目、午前中から昼にかけて、魚釣りと素麺流しを行った。また素麺流しの際には子ども達自身もおにぎりを握った。自分達で握ったということもあり、「いつものおにぎりより美味しい」とおかわりをして食べている様子であった。

・ 二日目午後：川遊び、夕食作り、そばの芽キット作り

午後から、川遊びをした後、当コースの一番のイベントである夕食作りを行った。講師として、地産地消レストランほおのきの方に来ていただき、カレー作りと野菜サラダ作り講習会が行われた。皆、調理への関心は非常に高く、一生懸命料理に取り組んだ。初めて包丁を握ったという参加者もいたが、上級生と下級生が協力し合いながら取り組んだ。また、後片付けも率先して行った。その日の夕食は、自分達で作った料理ということもあり、どの参加者も何回もおかわりをしていた。

そして特に、このプログラムではサポーターとして参加して下さった学生と参加者である子ども達が一丸となって活動に励む様子を、何度も垣間見ることが出来た。

・ 三日目：清掃、県民の森でのクラフト作り、清掃活動

三日目は B コースの内容とほぼ一緒であった。県民の森でのクラフト作りは、竹笛作りを行った。のこぎりで竹を切り、小刀で切り込みをいれる難しい作業であったが、熱心に励んでいた。



力いる作業に一生懸命取り組む様子



ワクワクしながら調理をする子ども達



初めての包丁使い



自分で作ったご飯の味は最高でした



完成した竹笛を練習する子ども達



参加者全体での集合写真

(3) 自然ドキドキ体験コースについて

参加者児童数は26名、サポーター数は8名で実施した。このコースは自然の面白さ・偉大さを本格的に体感するという特色をもったコースであり、メインイベントは竹水てっぽう作り、リバートレッキング、カブトムシ相撲大会見学であった。またこのコースには、東日本大震災支援の一環として、別団体が福島から招聘した子ども達4名も当会のこのキャンプ事業に合同参加した。

・初日：箸作り、魚釣り、虫とり、古湯温泉での入浴、暗闇探検と星空観察

初日の活動はB・Cコースの内容とほぼ一緒であり、午前中に箸作り、午後に魚釣り・虫取りを行った後、古湯温泉で入浴をすませ、夕食後、暗闇探検と星空観察を行った。

・二日目午前：竹水てっぽう作り、素麺流し

地域の方を講師に向かえ、竹水てっぽう作りに取り組んだ。この企画を楽しみに参加した子ども達も多く、大いに盛り上がった。完成した竹水てっぽうを実際に使った子ども達は、予想以上に、水が遠くまで飛ぶことに感動した様子であった。

・二日目午後：リバートレッキング

昼に素麺流しを行い、午後はリバートレッキングを行った。皆で手をつなぎあい、助け合って臨んだ。単なる川遊びとは異なり、川の流れに逆らいながら歩き、全身で清流を感じる活動に、初めは恐る恐る、足を踏み出す子ども達もいた。だが、次第に積極性が出てきた子ども達には、助け合う様子も見られるようになった。上級生が下級生の手を握り先導する場面や、「頑張ろう」とお互いに声を掛け合いながら取り組む場面には、子ども達の持つ力の大きさを非常に感じた。川の面白さ・恐さ、自然の豊かさを、大いに発見できたプログラムとなったようであった。

・三日目午前：カブトムシ相撲大会見学

富士町フォレスト富士で催されたカブトムシ相撲大会を見学した。皆、食い入るように見学しており、大会の様態を絵に描いた子ども達もいた。「普段、虫かごで飼育しているカブトムシがこんなに強いパワーを持っているのか」と感心していた子ども達であった。

・三日目午後：室内レクリエーション、清掃活動

午後は雨天であったため、室内でレクリエーションをして楽しんだ。縦割り班ごとにチームを組み、チーム対抗戦で行った。チームのために頑張ろうと、どの班もチームワークを大切に励まし合ってゲームに取り組んだ。



竹水てっぽう作り



上手にのこぎりを使う様子



自分達で配膳を行う子ども達



素麺流しを楽しむ子ども達



毎朝取組んだラジオ体操



大盛り上がりの室内レクリエーション

(4) 寺子屋コースについて

参加児童数 21 名、サポーター数 11 名で実施した。このコースの特色は、現役大学生に夏休みの宿題を見てもらいながら一緒に取り組み、苦手克服をしようというものであった。

・初日：夏休みの宿題、古湯温泉、暗闇探検

午前中は、参加者各々持ってきた宿題を大学生と一緒に取組んだ。算数のやり方を大学生に聞く様子も見られ、熱心に取り組んだ。午後は箸作りを行った後、古湯温泉で入浴し、暗闇探検を行った。あいにく曇り空の天候で星空を見ることは出来なかったものの、雑木林で蛍の群れを見ることが出来た。季節はずれの蛍の群れであったため、参加者一同驚いた。木々に群れて光る様子を「クリスマスツリーみたい」と感動している参加者であった。

・二日目：夏休みの宿題、素麺流し、川遊び、清掃活動

午前中は夏休みの勉強に取り組んだ。ドリルや書き取りに取り組む子ども達もいれば、関屋の自然を使った自由研究に取り組む子ども達もいた。昼に素麺流しを行った後、川遊びを実施した。その後、清掃活動を行った。



宿題に取り組む子ども達



下級生に宿題を教える上級生



苦手な野菜も一生懸命食べました



川で楽しむ子ども達

6. 事業の反省と総括



参加者全体での集合写真

(1) 反省

- ① サポーターへの事前研修不足：事前研修内容は口頭での説明会のみであったため、スタッフとしての動き方や、子ども達との関わり方のイメージが浮かばず、当日の動き方に混乱する学生もいた。事前研修内容を充実させることでサポーターと協働で、より良いプログラムを作ることが出来たのではないかとと思われる。
- ② 広報の開始時期の遅れ：当初は計6本のコースを実施予定であった。だが、広報時期が遅かったため、うち2つは最少催行人数を満たさず中止となってしまった。

(2) 総括

この事業は、地元住民のたくさんのご協力を得たからこそ、実施することが出来た。

当事業の成果として第一に、参加者である子ども達がこのキャンプを通じて、精神面で大きな成長をしたことがあげられる。例えば食事面に関して、いつも以上におかわりをして食べる様子や、苦手な食べ物を周りの子ども達と切磋琢磨し、頑張っって食べる様子が見受けられた。さらに、茶碗洗いなどの片付けも子ども達自身で行った。最初は洗い方に苦戦していたが、徐々に上手になり、最終日には低学年でも上手に洗えるようになった。このように自主的に集団生活行動を、積極的に取組んだという、当事業の彼らに与えた影響は、大きいものであったといえる。また自然体験活動においても、普段の生活では、なかなか経験できない現代の子ども達にとって、新鮮な体験かつ自然の面白さや人と自然との共生を考える貴重な体験であったといえる。そして何よりも、地域住民との交流は、子ども達にとって良い機会となったと感じる。

第二の成果として、この地域は過疎化・高齢化の集落であるが、子どもたちの声などが響くことで地域内では自然と集まる場所になり、年配者の人たちも自然と笑顔になっていた。当事業実施期間中、地域住民が「久しぶりに子ども達の歓声を聞いた」「久しぶりに関屋が賑わった」など、子ども達の滞在を非常に喜んでくださった。また、喜んでくださっただけでなく、収穫した野菜を持って立ち寄ってくださったり、近くで射止めたイノシシを子ども達に見せに来てくださった。さらに、活動プログラムの講師として地域の方々に参画していただき、集落の自然資源を生かした竹水鉄砲作りや魚釣りなどといった自然体験活動や、地元で取れた野菜を使った地産地消料理づくりなどを、子ども達に指導して下さった。このように地域住民にとっても、集落の良さを改めて見つめ直す機会となったと共に、子ども達と心の交流を図る良い機会になったといえる。

キャンプ終了後、参加者に感想文を書いてもらった。その中では、「楽しかった。来年もまた参加したい」「もっと長く泊まりたかった」「また富士町に来たい」という積極的な声が多くあがっていた。また「自然は凄いなと思った」「初めて魚釣りをした」「こんなにキレイな星が見れて感動した」など自然体験への感動を綴る子供達も多く見られた。

以上のことから、当事業実施の目的であった、都市農村交流による地域活性化、そして学びある健全な青少年育成のための事業として、キャンプ事業の意義を感じることが出来たといえる。この事業を一時的事業とせず、今後も継続して行うことで、都市農村交流の意義を佐賀県内で高め、推進させてゆきたい。

最後に、当事業にご協力いただいた皆様に大変感謝を申し上げます。